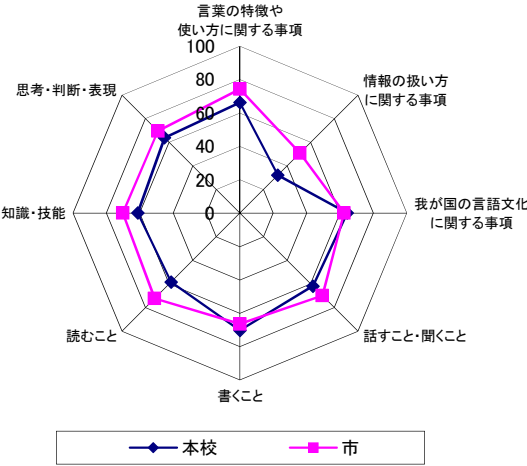


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.2	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	32.1	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	64.3	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	61.9	69.9	69.7
	書くこと	70.2	66.4	64.6
	読むこと	58.3	72.3	71.0
観点別	知識・技能	61.2	70.1	70.0
	思考・判断・表現	63.8	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

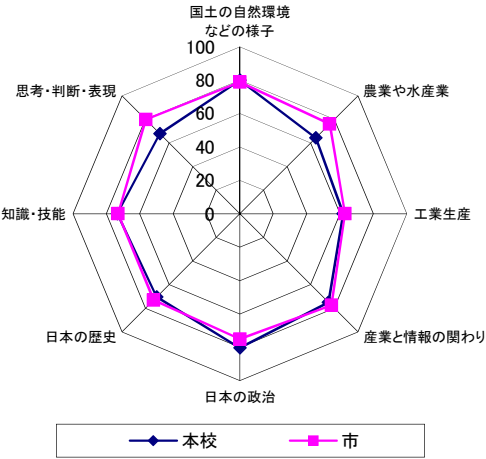
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○漢字の読みは、市の平均よりもやや低い、多数の児童が理解できている。 ●漢字の書きと使い方は、正答率が低く、文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使うことにつまずく児童が多く見られた。 ●尊敬語の正しい使い方の問題の正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の短文作りを通して、文にあった漢字を使い分けられる力を養っていきたい。 ・正しい言葉の使い方を指導していく中で、尊敬語や謙譲語、丁寧語についても触れ、普段の生活の中で実践できるようにしていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり目的に応じて文章を簡単に書いたりすることが難しかった。	・図表やグラフの着目の仕方を指導して、資料を深く読み込む力を付けていきたい。 ・国語だけでなく多数の資料から情報を集める総合的な学習の時間の調べ学習などでも、同じテーマで学習している児童同士で、読み取りを共有できるようにし、充実させていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○漢字の由来についての問題では、市の平均よりも多数の児童が理解できている。	・漢字の学習において、由来や活用などを漢字辞典で調べ、漢字に興味を持って取り組めるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○話し手の目的に応じて、話の内容を捉えることができていた。 ●司会者の立場として、計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を問う設問については低かった。 ●互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合う司会者としての進め方を記述する問題については、正答率が低かった。	・話し合いの方を示し、話し合いの進め方をしっかりと身に付けさせた上で、話し合い活動ができるようにしたい。 ・小集団の中で司会者を経験させながら、話し合いのテーマを常に意識しながら進めることができていたか振り返るように工夫していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表す設問についてはよくできていた。また、段落の役割について理解し、2段落構成で文を書くことができていた。事実をもとに自分の意見を書くことができていた。	・自分の意見や考えに理由を添えて書くなどの機会をこれまで多く取り、書くことに対する意欲が高まっているので、継続していく。 ・書いた文章などを児童同士が読み合う場を設定し、表現の技能を高めていきたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●物語の読み取りでは、登場人物の心情や行動について、描写を基に捉える問題の正答率が低かった。 ●説明文の読み取りでは、文章全体の構成を捉えることができていなかった。	・授業において、登場人物の心情を、教材文の叙述を基に読み、細かな描写の理解を深めていく。 ・説明文の読み取りでは、段落構成を意識しながら、読めるよう指導していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.0	78.9	75.4
	農業や水産業	64.3	76.1	71.2
	工業生産	61.9	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	75.0	77.6	59.7
	日本の政治	80.4	75.0	79.3
	日本の歴史	70.5	73.1	72.8
観点別	知識・技能	73.5	73.0	71.4
	思考・判断・表現	67.9	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

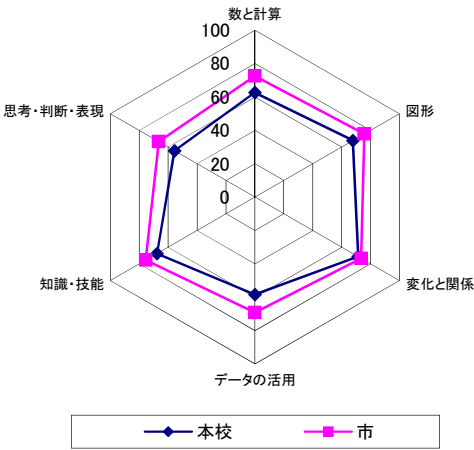
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに読み取る問題は、市の平均を上回った。 ○津波から生活を守る取り組みについての問題は、正答率が100%だった。 ●国名や国の位置についての問題は市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本周辺の海洋名や国名など、基本的な事項が定着していないので、各分野の用語をプリント等で学習する必要がある。 ・身の回りの生活から視野を広げ、自ら学習する習慣付けを行うことを通して、生活に起こる様々な問題について考えられるようにする。 ・自然災害や防災に関わることなど、自分たちの生活や環境に関する理解ができています。今後も自分との関わりを意識させ指導にあたる。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●複数の資料に着目して、魚の流出にかかる費用について捉え、判断を問われる問題は、市の平均を下回っている。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題が市の平均を下回っている。	・都道府県の位置の理解だけでなく、複数の資料から読み取れることについて考えたり分析したりする必要があるので、気温や特産物など複数の資料について関係性を考えられるような学習をする。 ・統計資料から日本の水産物の特徴を読み取る問題などグラフなどの資料を読み取ることが苦手な児童が多いことから、見るポイントを押さえて読み取れるような学習活動を取り入れていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○日本の鉱山資源の輸入について資料を読み取る問題が市の平均を上回っている。 ●自動車工場の作業工程についての問題が市の平均を大きく下回っている。 ●大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る問題が市の平均を下回っている。	・自動車工場の作業過程について理解していないことから、順序立てて並べ替えたり、状況を読み取ったりできるような学習活動を取り入れていく。 ・統計資料を比較して読み取ることが苦手な児童が多いことから、複数の資料をもとにした学習を取り入れることが必要である。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ●インターネットを利用するときの注意点の問題が市の平均を下回っている。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題は、市の平均をやや下回っている。	・わたしたちの生活と情報との関わりについておおむね理解しているが、今後も情報活用の重要性についてさらに定着を図ってきたい。 ・実生活からの知識を取り入れながら、社会の仕組みを理解する機会を学習活動に取り入れる。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日本国憲法の三原則について問われる問題では、市の平均を上回っている。 ●裁判の仕組みについて資料を読み取る問題では市の平均を下回っている。	・日本国憲法の三原則についての理解がよくできている。しかし、日本国憲法についての理解が不十分な児童も若干見られるので、憲法の基礎的な知識について、プリント等を用意して理解できるようにする。 ・各用語の確認をしたり、図で裁判の流れを確認したりした後、社会に実際に起きている問題と裁判内容を資料にして触れることで、裁判の仕組みについてより具体的に理解できるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○室町時代の文化についての問題は市の平均をやや上回っている。 ○江戸時代の法についての理解を問われる問題は市の平均を上回っている。 ●弥生時代の人々のくらしを捉え表現する問題は市の平均をかなり下回っている。	・歴史的事象だけでなく、それを背景とした文化も事象と合わせて、理解を進めていく必要がある。その時代の政治的内容と文化内容の関係性について、視点を明確にしながら考える経験を積むことができるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	62.6	72.6	73.1
	図形	67.9	75.7	74.7
	変化と関係	71.4	73.6	66.1
	データの活用	58.3	69.2	70.7
観点別	知識・技能	67.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	55.6	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

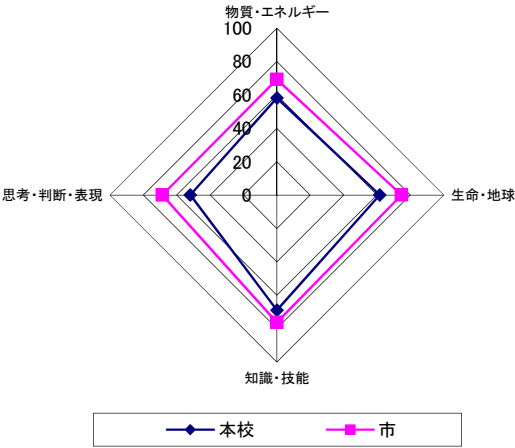
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○分数の計算ができています。特にかけ算、わり算はできていますが、たし算はあまりできていない。 ○文字で表された式について問題場面を選択することができます。 ●文章と図(数直線)を同時に読み取り、答えることが苦手である。 ●立式の説明をすることができていない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算については引き続きプリントやドリルなどを活用し、定着を図る。 ・立式の説明をペアやグループで行い、そして全体共有する活動を取り入れる。 ・文章に印や線を付けさせて、文章を読み取る習慣を付けさせる。 ・文章問題に慣れさせるため、授業の導入に取り入れるなど、文章題に数多く触れられるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○線対称な図形について、対応する点を選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ○組み合わせた立体の体積を求める問題は、よく理解できている。 ●多角形の内角の和の求め方が身に付いていない。 ●合同な図形の作図ができない。 ●立体図形を空間的に考えることがあまりできていない。	・多角形の性質を授業の導入などで繰り返し確認することで、定着を図る。 ・コンパスなどの用具の使い方を復習し、繰り返し練習をする。作図の際に、どこの辺の長さや角の大きさを使って描いたのか明記させる。 ・立体の学習では、具体物を用いて、実際に組み立て実践させる活動を授業で取り入れる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○分速を秒速や時速に直す問題がよくできている。 ○単位量当たりの大きさの問題で、割合を求めることができる。 ●単位変換の理解が不十分である。	・様々な単位変換をする問題を取り組ませ、理解を深めさせていく。 ・立式するときにも、単位を意識させることで、単位を揃えることに意識が向けられるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○半分が何パーセントであるかを求める問題は、市の平均より上回っている。 ●平均を求めることができていない。 ●円グラフから、割合であらわされた収穫量を計算で求めることができていない。 ●資料を読み取り、根拠を明確にした文に表すことができていない。	・公式を再確認して問題を解かせることで理解を深める。 ・基準量と比較量の割合の関係を再確認し、類題に取り組む。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.2	69.3	65.7
	生命・地球	61.6	74.7	77.8
観点別	知識・技能	68.9	76.2	76.4
	思考・判断・表現	51.9	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ●特に、ふりこのきまりの問いが市の平均よりも低い。ふりこの性質について、十分に理解していない。 ●物の燃え方の問いが市の平均より低い。物が燃えるには酸素が必要だということを十分に理解していない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の際には、条件制御を行い、変える条件を一つだけにしなければいけないことを理解していない。実験するときには、自分で実験計画を立てるとともに、統一する条件と変える条件を表に整理するなど視覚化を通して理解できるようにする。 ・ろうそくの火が消えた後は、酸素がなくなったのではなく、減ったということをきちんと授業の中でおさえる。実験の際に、気体検知管を用いて、数値に着目させる実感を伴って理解できるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ●植物のつくりとはたらきに関する問いができていない。	・実験には、対照実験を行うことで、結果が明確になることを理解できていない。対照実験をなぜやるのか、しっかりと押さえてから実験を行わせる。対照実験と比べながら、考察を行えるようにする。 ・植物の生育には日光が必要なことをわかっているが、光合成によってでんぷんがつくられるところまで言及できていない。光合成の働きを図に整理するなど、視覚化を図りながら、十分に理解させていく。

宇都宮市立上河内西小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。	高学年では、家庭学習時間が本校の目標時間である1時間以上を9割の児童が達成できている。他の学年でも、それぞれの目標時間をおおむね実施している。「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については、6年生は9割の児童が肯定的な回答をしているものの、3～5年生は、6割に留まっている。学びを自分のものとして捉えられるような学習習慣を身に付けさせたい。
毎時間、各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために、授業のねらいに沿った振り返りの視点をもとに、振り返りを書く活動を積み重ねた。テストにおいても、分析をさせることで、次につながられるようになってきた。	学習に対する気持ちや態度は、ほとんどの項目で、8割が肯定的な回答し、主体的に学習に取り組む態度が育ってきている。また、また、「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直しているか」については、3～6年生のうち、3学年で、市の肯定割合を上回っており、毎時間、テストでの振り返りと分析をその後の学習につなげることができている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・課題となる内容について、全学年意図的、系統的に授業や家庭学習を取り入れ、定着を図る。
- ・自ら問いを見だし、見通しを立てて、粘り強く学習に取り組む児童の育成を目指した授業研究を計画する。
- ・児童の学習へ向かう気持ちも向上させるために、自主学習で何に取り組んだらよいのか児童が自ら選択できるような単元計画を発達段階に合わせ、児童とともに立てていく。
- ・自分の考えを書くための活動を日常的に取り入れ、さらに学び合いの中で、自分の考えを改善していく授業を意図的に設定していく。